# タスペーサー

商標登録

PAT-P

平板屋根材、再塗装時の縁切り部材

タスペーサー02

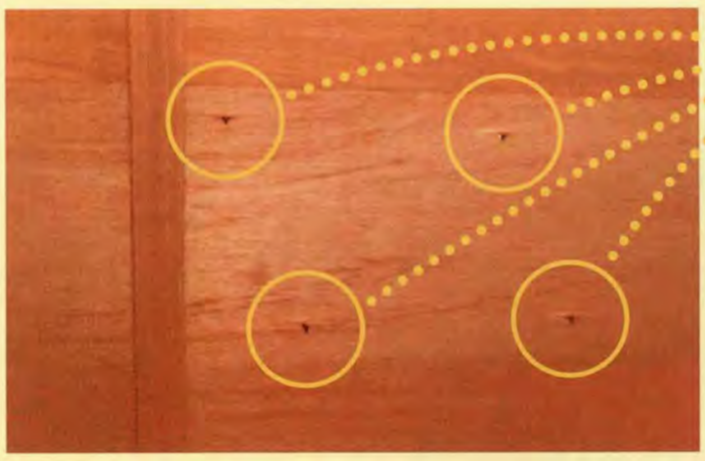
タスペーサー03

エスパッター

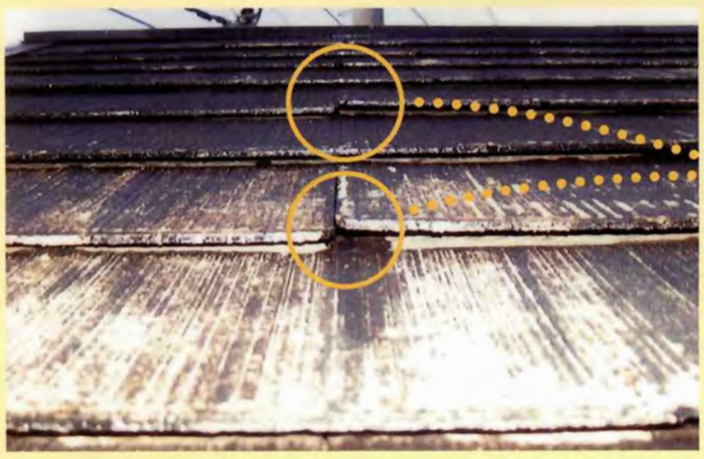
# 屋根の構造をみてみると･･･

1. 下地(コンパネ)野地板を張る。
2. 防水シート(ルーフィング)を張る。
3. 屋根材を下方部から1枚ずつ順に釘で打ちつける。

屋根材を打ちつけた釘が下地(コンパネ)野地板を貫いて、家の天井裏に突き抜ける。
(下の写真参照)



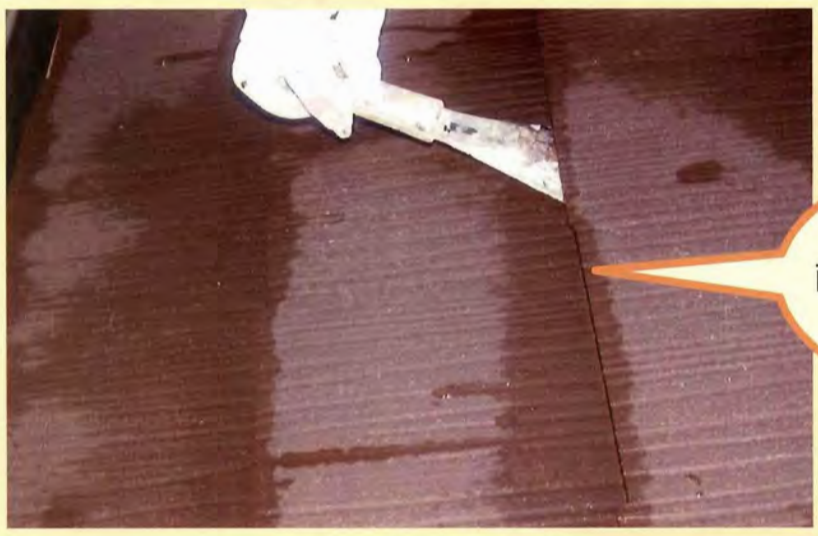
**下地(コンパネ)野地板を貫いた釘。**
室内天井裏から確認できる。



## 塗装もその他の手入れもせずに放っておくと･･･

1. 屋根材の塗膜が劣化し防水性を失う。
2. 波形状に反ってくることがある。
3. 放っておくと破損しやすくなる要因になる。

# なぜ「縁切り作業」が必要なのか？



●左の写真は、塗装前に撮影したもの。(雨上がり2時間後)

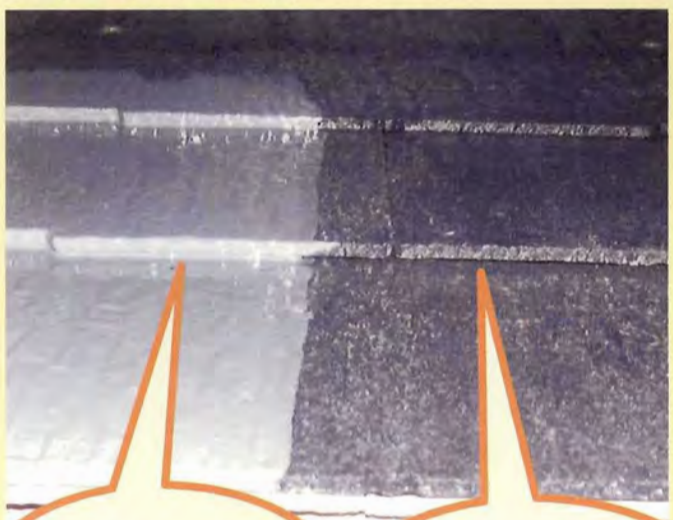
元々は上下重なり裏面から雨水や水分が排出されるようになっている。

●では‥‥雨水や水分はどこから侵入するのか？

ここの目地部からの侵入が一番多い。塗装しても目地部はふさがらない。

勾配が少ないと、毛細管現象で水平方向からも水分が侵入することがある。

●下の写真は倉庫内での試験



塗料で完全に上下が密封されてしまう。

元々は、このように多少の隙間が確保されている。

塗料でふさがってしまい雨水の逃げ場がなくなってしまう。

# 縁切り不十分による被害と不具合

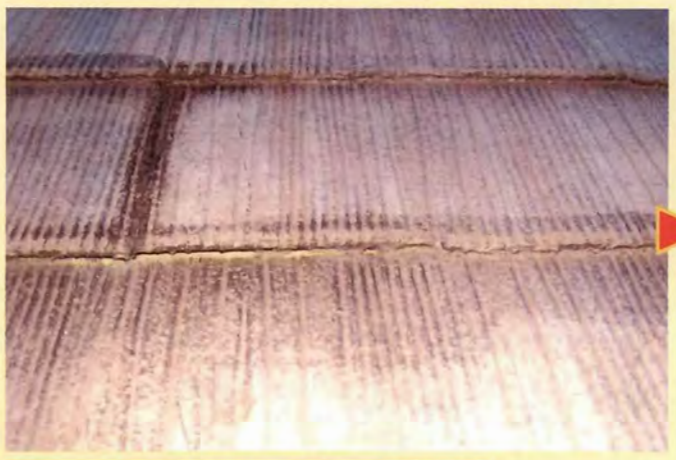
●数年前に塗装をしたが･･･

工具で屋根材を少し上げただけで、
中に溜まっていた水分が流れ出てくる。

●2年前に塗装をしたが･･･

雨上がりの翌日撮影。
下地が腐朽していた。

●築年数16年の家･･･ 塗装を2回した。



この家は下地が完全に腐朽し、塗装での
リフォームができず、金属屋根にした。

完全に下地が腐朽!!
雨漏れもあった!

●構造材の腐朽。

縁切り不十分により何回か部屋に雨漏れがしていたと
いう。外壁ヒビ割れからの雨水侵入もあり、構造材まで
腐朽していた。

# 従来の縁切り工法では不十分!!

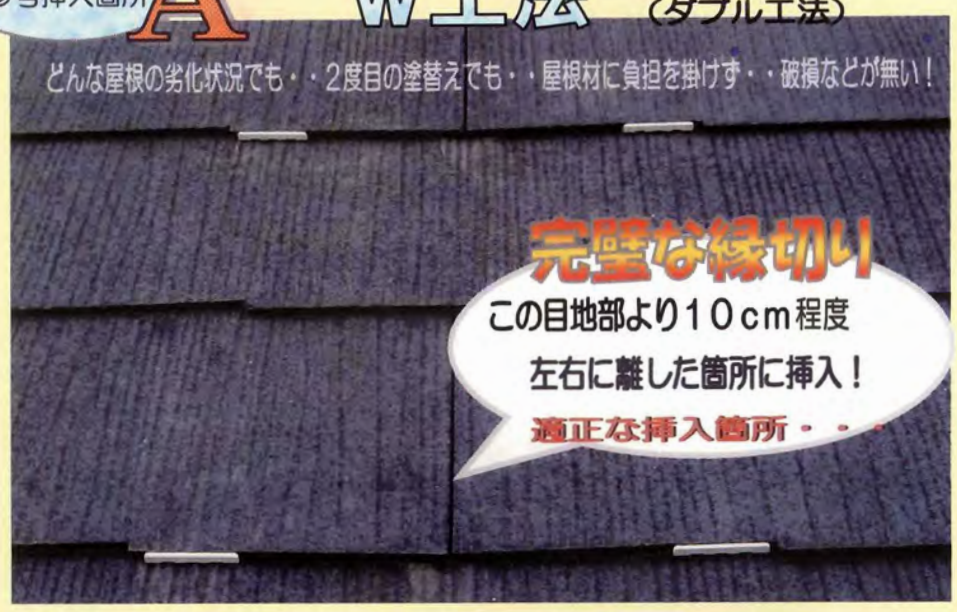
## 今までの縁切り作業では･･･

1. 従来の皮スキ、ケレン棒、カッター等では屋根材が破損することが多い。
2. 仕上げた塗膜が剥がれたり、キズがついたりする!
3. 従来の工具を用いての作業では、完璧に縁がきれない。
4. せっかくきれいに仕上げた屋根が汚れてしまう。
5. 屋根下地の通気性が悪くなり、下地の腐朽の原因になる。

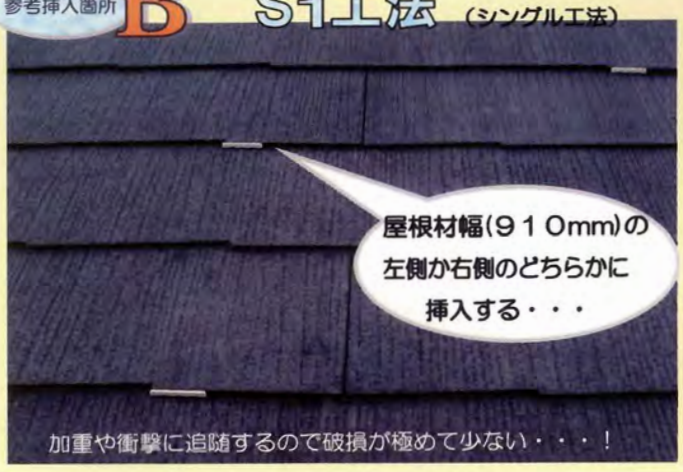
# これで完璧・安心!! タスペーサー参考挿入箇所

## タスペーサー02・03による縁切り

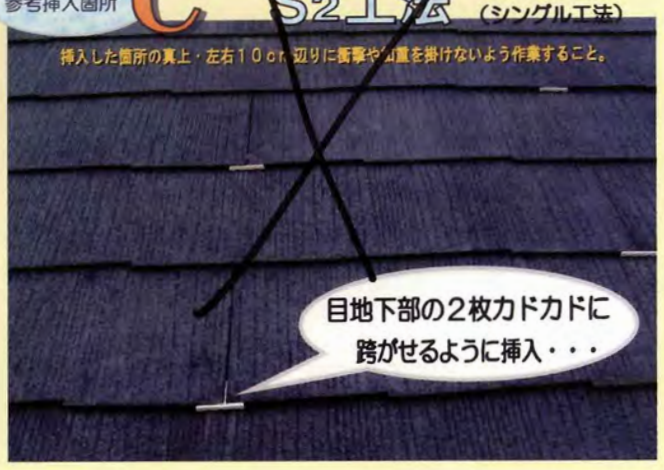
参考挿入箇所 **A** W工法（ダブル工法）




参考挿入箇所 **B** S1工法（シングル工法）




参考挿入箇所 **C** ~~S2工法~~（シングル工法）




エスパッター

## エスパッターと タスペーサーによる縁切り

◆タスペーサーの挿入しにくい箇所や前回の塗替えでの塗膜で、屋根材上下が密着している箇所などは、エスパッターをお使いください。

作業完了

# タスペーサー 02・03

タスペーサー 02

タスペーサー 03

## ご注意

1. ご使用の際には、必ず取扱い注意事項をお読みになってから使用してください。
2. 必ず規定の塗付量と工程で作業してください。

   塗膜がきちんと形成されていないと、部材と屋根材小口部の密着性が悪くなり、部材が抜け落ちる危険性があります。ご注意ください。

3. タスペーサーが挿入しにくい箇所は、縁切り工具・エスパッター(別売)をお使いください。

# タスペーサー02·03

【平板屋根材の塗替え時縁切り部材】PAT-P　商標登録

## タスペーサー02·03取扱説明書及び注意事項

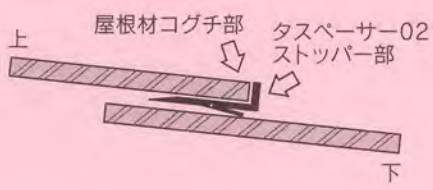
本来縁切り作業は、屋根材上下重なり部の水平方向すべてに行うもので、塗替え前の元の隙間を維持し通気性を確保しておく事が最大に重要なことです。トラブルを未然に防ぐために完璧な縁切りを実行することをおすすめすると同時に、下記の取扱注意事項を十分に読んで頂いた上で適正にご使用ください。 なお、あらかじめ屋根材上下重なり部の隙間が4ミリ～5ミリ以上開いている箇所はタスペーサーは必要ありません。

### タスペーサー挿入箇所は、パンフレット(5ページ)を参考にしてください。

1. タスペーサー02は、下地調整(洗浄)後、あるいはシーラー・プライマー下塗り後に、適切な箇所に挿入してください。それから中塗り～上塗りを完了し、抜き取らずにそのまま使用してください。
2. タスペーサー03は、シーラー・プライマー下塗りを十分に乾燥養生させてから適切な箇所に挿入してください。入れにくい箇所は、縁切り工具(別売り：エスパッター)を使用しながら挿入し、それから中塗り～上塗りを完了し、抜き取らずにそのまま使用してください。
3. タスペーサー02·03をご使用の際は、挿入した箇所の真上や左右10cm以内辺りに衝撃を与えたり、カカトやツマサキで急激に加重を加えたりしないでください。屋根面劣化状況によってはヒビが入る場合がありますので、十分に注意をして作業してください。
4. 下地調整(洗浄)等は十分に良く行ってください。汚れ、ホコリ、ゴミ、コケ等が残っていると、屋根材コグチ部とタスペーサーの密着性が著しく悪くなり、タスペーサーが抜け落ちる危険性が出てきます。
5. 再々塗装の場合は、屋根材上下重なり水平方向コグチ部に旧塗膜が付着している場合がありますので、縁切り工具(エスパッター)を使用しながら、タスペーサーを挿入してください。
6. タスペーサー02·03のストッパー部(**下図1.2参照**)は、屋根材コグチ部に完全に止まるまで挿入してください。
7. タスペーサー02·03は、耐候性・耐久性・耐油性に優れた樹脂を使用しておりますが、水性塗料、弱溶剤塗料以外はご使用にならないでください。また、弱溶剤塗料を使用しタスペーサー03を挿入する場合は、必ず下塗り後(シーラー・プライマーを十分に乾燥養生させた上で)に挿入してください。
8. タスペーサー02·03は、ほとんどの水性塗料、弱溶剤塗料に密着しますが、一部の水性塗料に密着性が衰えるものがありますので、その際には必ずカスタマーセンターまでお問い合わせください。
9. タスペーサーをご使用の際は、使用塗料のカタログ、パンフレットをよくお読みになった上で、規定の塗布量と作業工程を必ず厳守し実行してください。塗膜が薄いと密着性が悪くなり、タスペーサーが抜け落ちる危険性が発生します。
10. 高所(高さ2メートル以上)での作業を行う時は、第一に適正な足場を架け、十分な安全対策を整えた上で屋根面に負担をかけないように、作業を行って頂くことをおすすめします。
11. タスペーサーを平板屋根再塗装時の縁切り作業の目的以外には、絶対にお使いにならないでください。
12. 冬場(冬季)での作業を行う時は、寒気や乾燥で屋根材が、少しの衝撃でも破損しやすくなっている場合がありますので、屋根面に負担をかけないように作業してください。
13. 使用する塗料によりタスペーサーと屋根材コグチ部の密着耐久性が若干異なりますが、次回の塗替えを5年後～8年後位の目安で行ってください。その間は点検アフターサービスを実践してください。密着性が衰えている箇所は必ず同じ塗料もしくはコーキング等で再度密着させるか、抜き取ってください。
14. 以上の取扱注意事項は必ず厳守してください。

Internet Paint Shop
ぺいんとわーくす
http://www.paint-works.net/

(図1) タスペーサー02




(図2) タスペーサー03

**タスペーサー**
**カスタマーサービス**
(連絡先)
**0120-603-565**